

第3次津和野町総合振興計画 基本構想(案)

令和9年度～令和18年度

島根県 津和野町

ひとつづくりこそ、まちづくり

新しい時代を作ろうとするとき、あるいは困難に直面したとき。このまちの人々は「人を育てること」「自ら学ぶこと」をよりどころに、道を拓いてきました。清らかな川と自然が人と文化を育んできたこの地では、「育み」は脈々と受け継がれてきた大切な水脈であり、いまでも人々の心やまちの中に息づいています。

人口減少の波の中でも、まちを想い、まちの暮らしを担っていく仲間をつくるため、津和野町はまち全体を学びのフィールドとし、あらゆる分野・年齢を対象とした、「ひとつづくり」によるまちづくりを始めました。未来のあるべき姿を見据え、長い時間をかけて取り組んできたまちづくりは、少しずつ実を結び始めています。

「しあわせとはなにか」「未来をどう生きるのか」。自分の夢や人生に向き合い、一歩ずつ前へ進んでいくためには、考え、学び、つながり合う力が欠かせません。

「ひとつづくり」を通じて、このまちに生きる一人ひとりが自分らしく歩む力が育つよう、その積み重ねが、これからのまちを支える力となるように。

津和野町は、誰もが希望ある未来へ進んでいける道を、町民とともに手を携えてつくり続けていきます。

津和野町民憲章

私たち津和野町民は
秀峰青野山や清流高津川の美しい自然と
先人の築いた郷土を誇りとし
ここに町民憲章を定め希望に満ちたまちづくりに努めます

- 1 ふるさとの自然を愛し 住みよい環境をつくりましょう
- 1 学ぶ心を育て 薰り高い文化のまちをつくりましょう
- 1 働くことをよろこびとし 豊かな産業をつくりましょう
- 1 助け合う心を大切にし 明るい家庭や地域をつくりましょう
- 1 多くの人々と交流し 開かれたまちをつくりましょう

津和野町教育ビジョン

自立心と公共心に富み、自然とふるさとを愛し、共に生きる力をもって自らの人生と郷土・我が国・世界の未来を切り拓く『津和野人』の育成を目的として、未来に向けてより一層の教育の魅力化を図ります。津和野町の歴史と伝統を受け継ぐ、特色ある教育によるまちづくりを、信念をもって進め、人口減少に打ち勝つ活力あるまちを目指します。



第 1 部 序論／津和野町の今

- 「津和野町総合振興計画」とは
- 津和野町のこれまで、そして今

第 2 部 基本構想／これからの津和野町

- これからの津和野町に向けて
- 基本理念
- 将来像
- まちづくり計画の構成
- 「将来像」の実現に向けた 5 つの「基本目標」



05

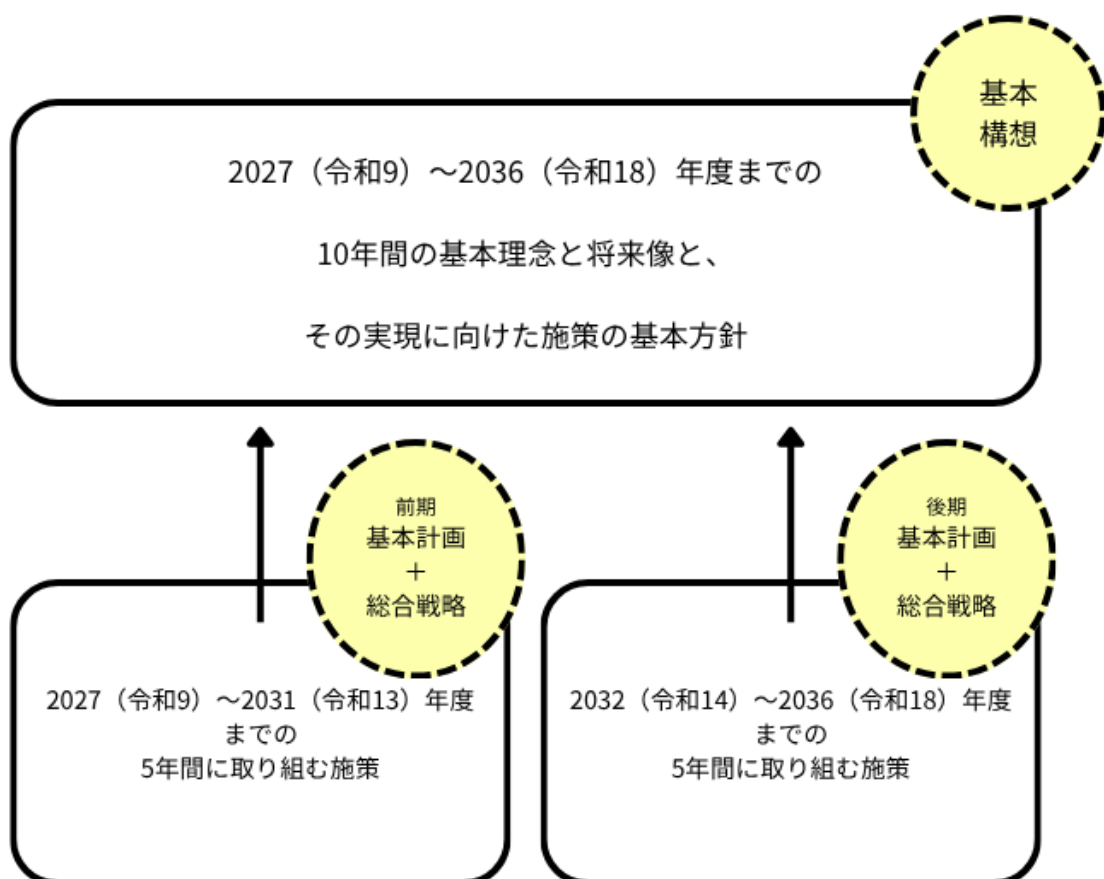
- 「津和野町総合振興計画」とは
- 津和野町のこれまで、そして今

「津和野町総合振興計画」とは

これからの新たな10年のまちづくりに向けて、「第3次津和野町総合振興計画」を策定しました。これは、これからのまちが目指すべき将来像を描いた「基本構想」と、その実現のための5年間の基本的な方策をまとめた「基本計画」で構成されています。

本書では「基本構想」について掲載し、別冊の「基本計画」には「住み続けたいまちのためのインフラ整備」「より良い文化や学びを育む取組」「まちの産業を活気づけるアイデア」「安心ある暮らしのためのセーフティネット」「移住・定住に向けた住まいや雇用の確保」など、これからの津和野町に必要な取組を幅広く盛り込んでいます。

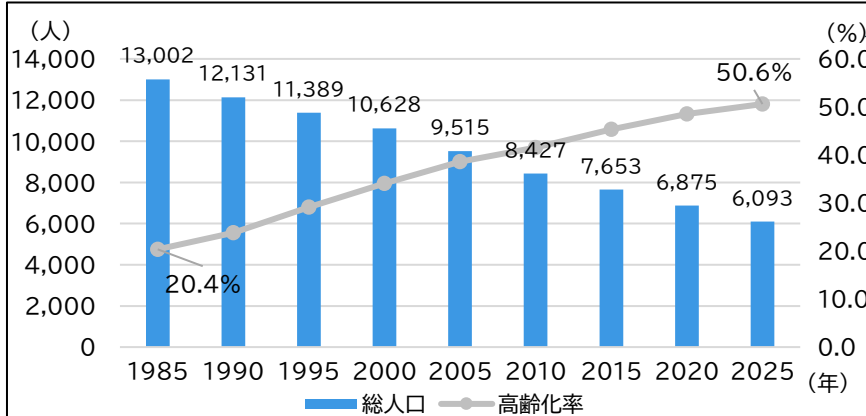
また、これまで二つに分かれていた、「総合振興計画」と、「まち」「ひと」「しごと」に焦点を絞り、地域の活性化に取り組む「総合戦略」を融合させ、これからの人口減少に対応する方策を、一つの進むべき道標として示しました。



津和野町のこれまで、そして今

津和野町の移り変わり

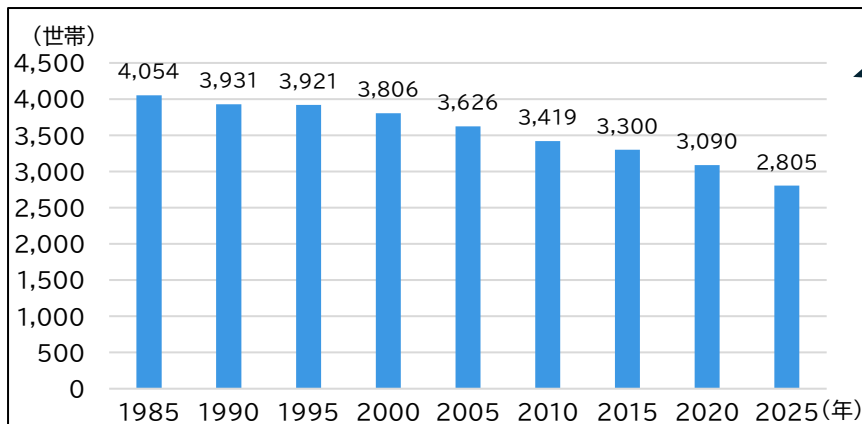
○総人口と高齢化率（出典：国勢調査）



2005(平成 17)年の合併以降、
総人口は約 3 割減少

津和野町の総人口は減少傾向にある一方で、高齢化率は上昇傾向にあります。1985(昭和 60)年から 2025(令和 7)年にかけて、総人口は 53.1%減少し、高齢化率は 30.2%上昇しました。

○世帯数の変化（出典：国勢調査）



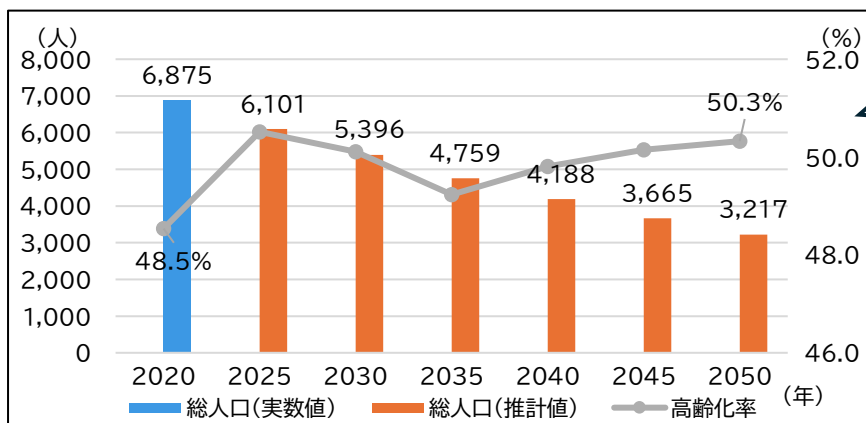
2005(平成 17)年の合併以降、
世帯数は 1 割以上減少

総人口と同様に、世帯数についても減少傾向にあります。1985(昭和 60)年から 2025(令和 7)年にかけて、世帯数は 30.8%減少しました。

○総人口と高齢化率の今後の予測(推計)

(出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」)

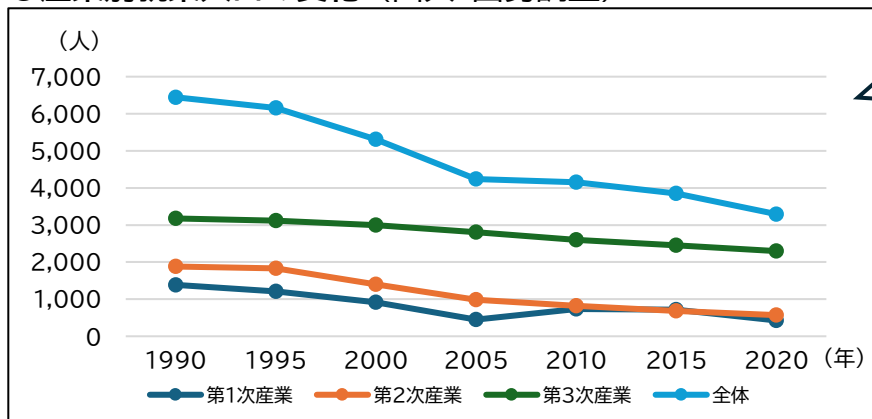
※2020(令和 2)年人口は国勢調査人口、2025(令和 7)年以降は推計人口



今後 30 年間で総人口は
半数以上減少するとの予測

今後も津和野町の総人口は減少傾向が続き、2020(令和 2)年から 2050(令和 32)年にかけて、総人口は 53.2%減少すると予測されています。高齢化率は微増すると予測されています。

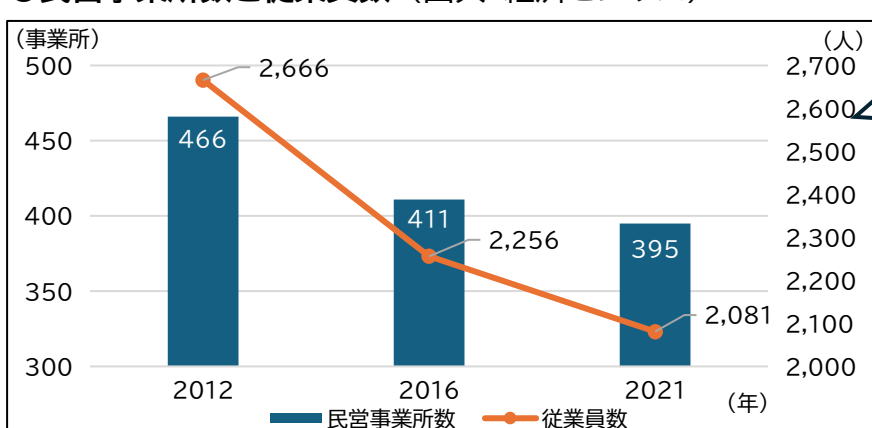
○産業別就業人口の変化（出典：国勢調査）



2005(平成 17)年以降、
全体の就業者人口は 2 割以上減少

津和野町の産業別就業人口は
全体的に減少傾向にあります。特
に、第 1 次・2 次産業の就業人口
の減少が著しく、1990(平成 2)
年から 2020(令和 2)年につ
けて約 70%減少しています。

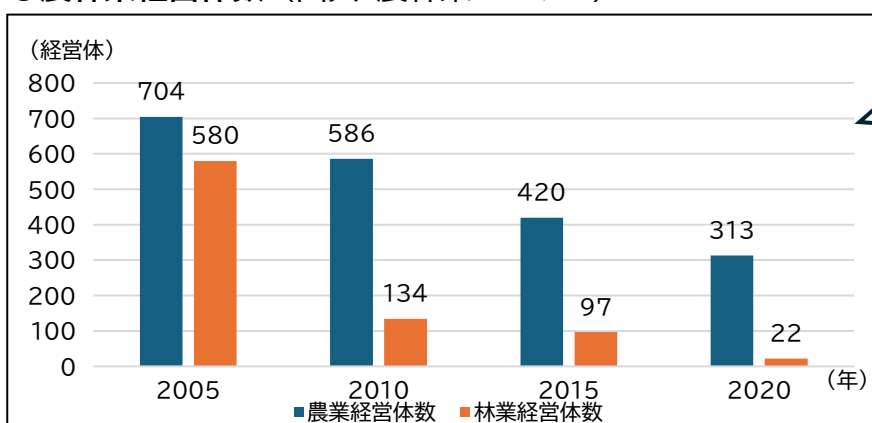
○民営事業所数と従業員数（出典：経済センサス）



9 年間で民営事業所、従業員数
ともに約 2 割減少

津和野町の民営事業所数とそ
の従業員数はいずれも減少傾向
にあり、2012(平成 24)年から
2021(令和 3)年にかけて、民
営事業所数は 18.0%、従業員数は
21.9%減少しています。

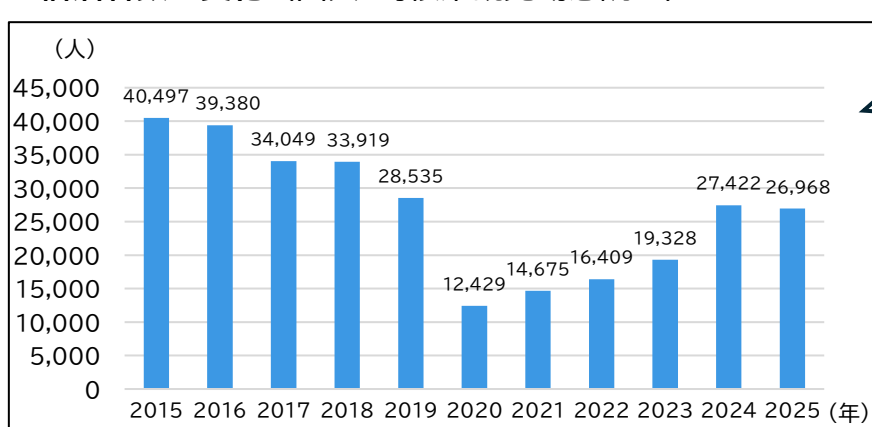
○農林業経営体数（出典：農林業センサス）



2005(平成 17)年からの 5 年間で
林業経営体数は約 8 割減少

民営事業所と同様に、農林業
経営体数も減少傾向にあります。
2005(平成 17)年から 2020
年(令和 2)年にかけて、農業経営
体数は 55.5%、林業経営体数は
96.2%減少しています。

○宿泊者数の変化（出典：島根県観光動態調査）

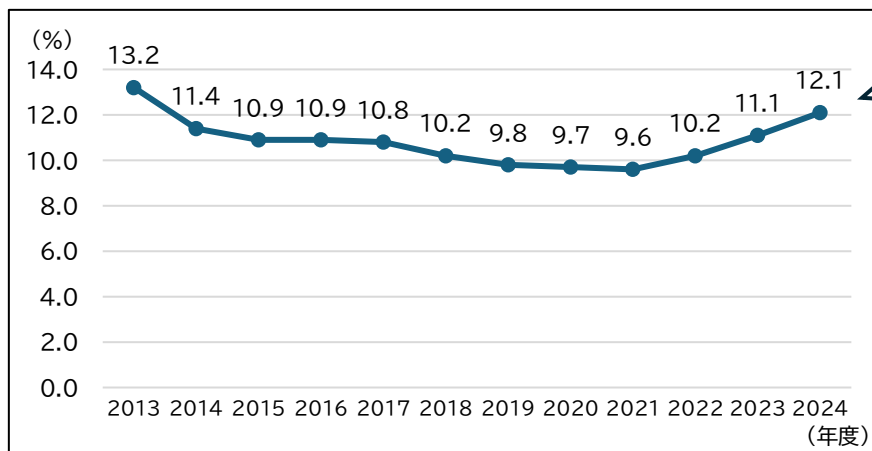


約 10 年間で 3 割以上減少

津和野町内の宿泊者数は、新
型コロナウイルス感染拡大の影響
を受けて 2020(令和 2)年に落
ち込み、その後回復傾向にありま
すが、以前の水準には戻っていま
せん。

○実質公債費比率の変化

実質公債費比率：自治体の収入に対して借金の返済がどの程度の負担になっているかを示す指標。比率が高いほど借金返済の負担が大きく、行政サービスに使える財源が少なくなるため、財政運営の自由度が低くなります。



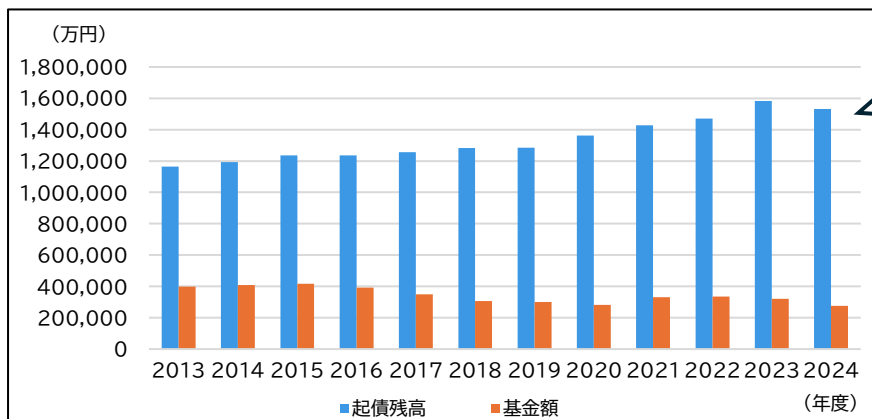
減少傾向であったものの、
近年は増加傾向に

津和野町の実質公債費比率は約10年間で9.6%～13.2%で推移しています。2024(令和6)年決算での島根県内自治体の実質公債費比率の平均は10.4%であり、平均よりもわずかに高い水準となっています。

○起債残高と基金額の変化

起債残高：自治体がこれまでに借り入れた借金のうち、まだ返済が終わっていない残高。

基金額：自治体が将来の支出や災害などに備えて積み立てている貯金の残高。



町民一人あたりで計算すると、
借金：243 万円、貯金：44 万円

津和野町の起債残高は増加傾向に、基金額は減少傾向にあります。さらに、総人口の減少から、町民一人あたりの借金は増加傾向にあります。

津和野町では、日々の暮らしや地域の営み、まちを訪れた人々との交流を通じて、地域ににぎわいと活力が育まれてきました。しかし近年は人口減少や少子高齢化の進行により、地域経済の縮小や地域コミュニティの維持、地域活動の担い手不足などが課題となっています。

津和野町には、豊かな自然や田園風景、歴史・文化資源、伝統的な町並みなど、次世代へ継承すべき多くの魅力があります。人口が減り、地域の維持が危ぶまれる中でも、ひとづくりを強化し、これらの地域資源を守り育てるとともに、新たな発想を取り入れながら、新しい時代に合わせて変化していくことで、津和野町ならではの魅力を高め、持続可能で心豊かに暮らせる地域づくりを進めていくことが必要です。

津和野町民意識調査から読み解くまちの現状

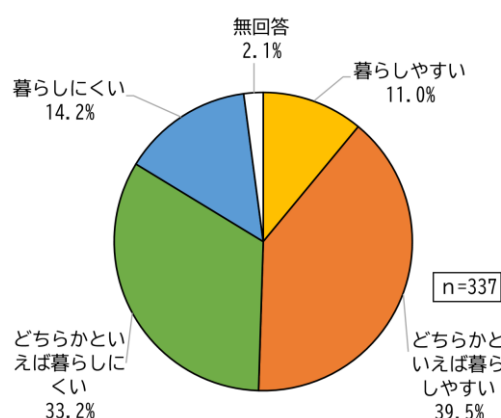
今回の総合振興計画の見直しにあたり、2025(令和 7)年度に津和野町民意識調査を実施しました。

対象	2025(令和 7)年 9 月時点で津和野町に住民票を有する 18 歳以上の町民から無作為抽出した 1,800 人		
有効回答数	837 件	有効回答率	46.5%

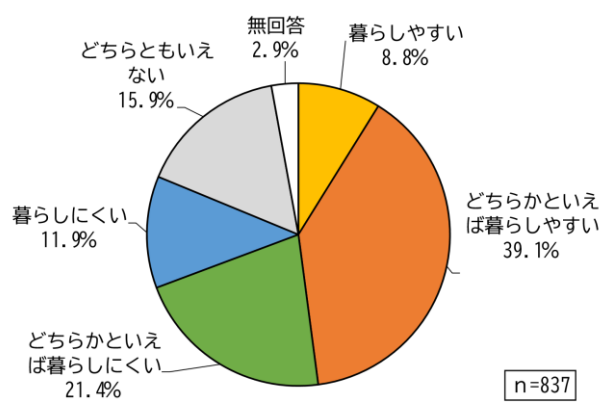
「第 2 次津和野町総合振興計画」の振り返り

2019(令和元)年度と 2025(令和 7)年度に実施した津和野町民意識調査の結果から、「第 2 次津和野町総合振興計画」の成果を振り返ります。

あなたは津和野町が暮らしやすいまちだと思いますか。(1つ選択)



2019(令和元)年度調査

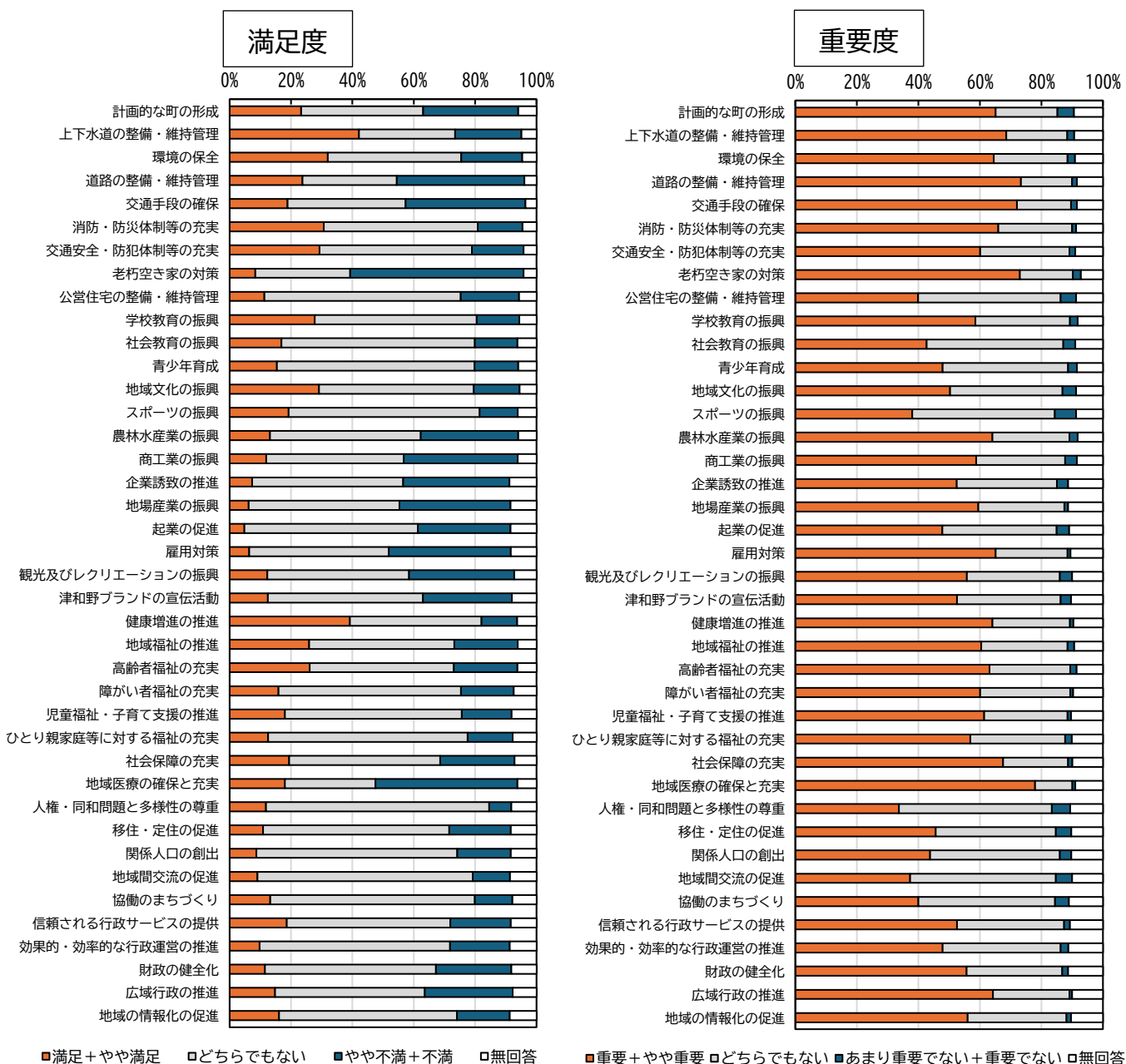


2025(令和 7)年度調査

2019(令和元)年度調査では「どちらともいえない」の選択肢がなかったため、単純比較はできませんが、2025(令和 7)年度調査では 2019(令和元)年度調査より、「暮らしやすい」または「どちらかといえば暮らしやすい」の回答割合が低くなりました。

また、「暮らしにくい」または「どちらかといえば暮らしにくい」と回答した理由として、交通・買い物・病院などが不便だから、地域が閉鎖的だから、人口や交流が少ないからなどの理由が挙げられています。「第 3 次津和野町総合振興計画」ではこれらの分野に重点的に取り組み、町民の暮らしやすさを向上することが求められています。

また、2025(令和7)年度津和野町民意識調査では、「第2次津和野町総合振興計画」で掲げている40の施策について、それぞれ「満足度(これまでの取組についてどのくらい効果を実感しているか)」と「重要度(今後その取組に対してどれくらい力を入れるべきか)」を5段階で回答していただきました。



施策の満足度に関する設問では、上下水道と健康増進の取組への満足度が比較的高い一方で、老朽空き家対策や雇用対策、地域医療の満足度が低くなっています。また、全体的には「どちらでもない」との回答が多くを占めました。これは施策への不満というよりも、施策の目的や成果が十分に伝わっていないことの表れと考えられます。

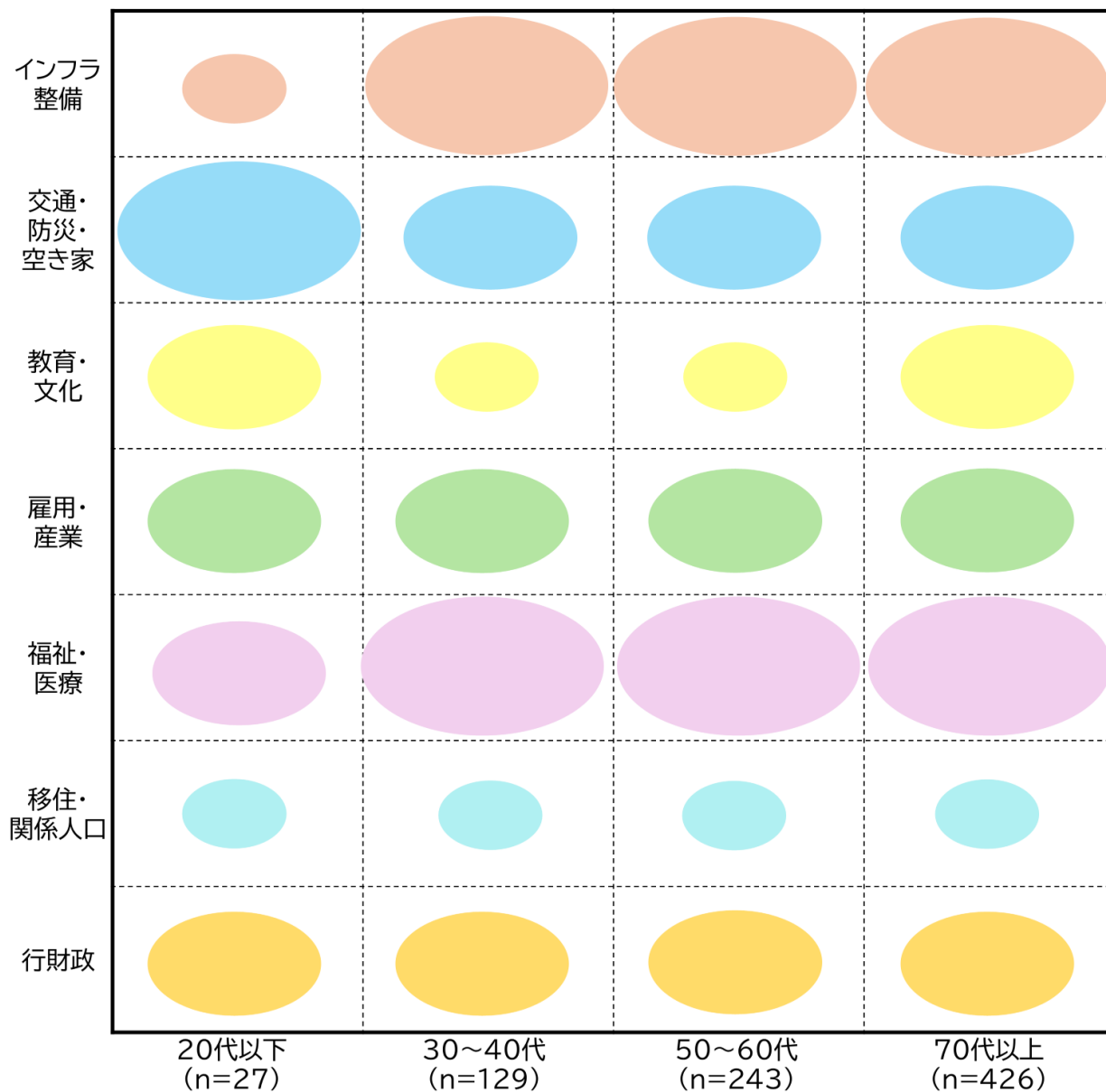
重要度に関する設問では、上下水道や道路などの生活インフラ、老朽空き家対策、農林水産業の振興、雇用対策、社会保障、地域医療、広域行政の推進への関心が高く、安心して暮らせる生活基盤や働く場の確保が強く求められていることがうかがえます。

津和野町民意調査から読み解く世代ごとの関心の違い

世代ごとに津和野町民意調査を読み解くと、それぞれの世代で関心の高い施策に違いがあることがわかりました。下図は、各世代の重要度の傾向を整理したものです。円が大きいほど、重要度が高いことを表しています。

世代ごとの重要度の傾向

(円が大きいほど、その年代で重要度が高いことを表しています。)



回答者

- 全体の回答者のうち、70代以上が半数を占めている。
- ほとんどの年代で回答者のうち女性が半数以上を占めている。

主な傾向

- 「インフラ整備」「交通・防災・空き家」「雇用・産業」「福祉・医療」「行財政」は全世代的に重要度が高い。
- 20代以下では、「交通・防災・空き家」の重要度が特に高くなっている。

津和野町が向き合うべき視点

調査結果を踏まえ、「第 3 次津和野町総合振興計画」では町民の声から見えてきた課題を以下の通り整理し、今後 10 年間の施策展開の土台とします。

○安心して暮らし続けられる生活基盤の充実

インフラ整備や、交通・防災・空き家など、幅広い世代で関心が高い分野について、人口減少や高齢化が進む中でも安心して暮らし続けられる生活環境の維持・充実を図ります。

○産業振興と雇用創出による経済循環

産業振興や雇用への関心の高さは、地域で働き、暮らし続けられる環境が求められていることを示しています。産業振興と雇用の充実は、地域経済の活性化と定住促進の基盤です。雇用対策や多様な働き方への対応などを進め、若い世代にとって働きやすく、魅力ある雇用環境を整えます。

○医療・福祉を支える地域づくり

全世代で地域医療や福祉への関心が高くなっています。高齢化が進む中でも、誰もが必要な支援を受けながら安心して暮らし続けられるよう、医療・福祉の充実と地域で支え合う仕組みづくりを進めます。

○行政情報の発信によるまちづくりの「自分ごと」化

施策の満足度について「どちらでもない」という回答が多く、施策の目的や成果が十分に伝わっていない可能性が考えられます。施策を着実に進めるには、町民が施策の目的や成果を実感できる情報発信が不可欠です。町民にとって分かりやすい情報発信や、まちづくりへの参加機会の創出を通じて、まちづくりへ積極的に参加したくなる仕組みや仕掛けをつくり、施策を「自分ごと」として受け止めてもらうことを目指します。

「第 3 次津和野町総合振興計画」では、これらの視点に加え、子育て・教育をはじめとする各分野の取組を相互に連携させながら進めることで、人口減少や少子高齢化が進む中においても、町民一人ひとりが自分らしく、希望を持って暮らし続けられる持続可能なまちづくりを目指します。



- これからの津和野町に向けて
- 基本理念
- 将来像
- まちづくり計画の構成
- 「将来像」の実現に向けた 5 つの「基本目標」

これからの津和野町に向けて

人口が減少している今だからこそ、人・仕事・地域が互いに支え合う「循環」をつくる

津和野町では、この先も人口減少や少子高齢化が進むことは避けられません。

しかし、人口減少を衰退と捉えるのではなく、これからは人口減少を前提とした地域のあり方を考えていくことが大切です。

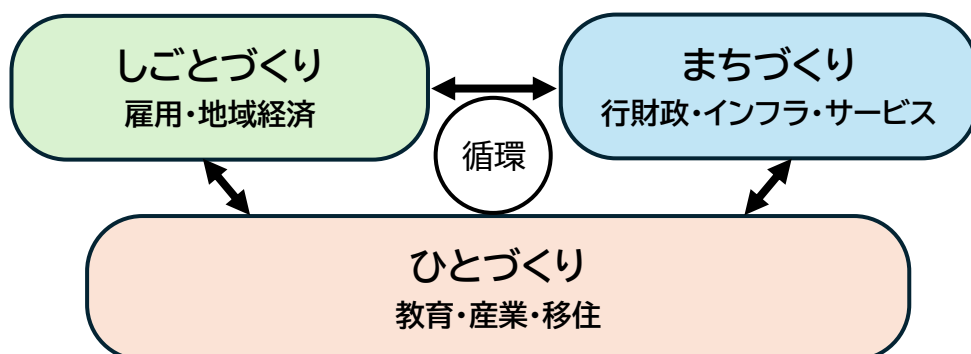
人口減少を緩やかにする取組を進める一方で、人口減少を受け入れ、限られた財源や人的・地域資源を効率的に配分・活用することが求められています。そして、まちの人々が安心して、小さくとも誇りを持って暮らせる環境を再構築していく必要があります。

地域の中で人が育ち、仕事が生まれ、その成果が再び地域へ還元される好循環を生み出すことが重要です。

一人ひとりが自ら考え、学び、つながり合うことで、津和野町に関わるすべての人の幸福度(Well-being)の向上を目指し、町民全員で「賑やか」な津和野町をつくっていきましょう。

循環を生み出す 3 つの要素

ひとづくり	こどもから大人まで、一人ひとりが学び、育ち、地域で活躍できる環境をつくり、地域を支える人材を育みます。
しごとづくり	地域の産業や観光、農林業などの魅力を高め、地域で働き続けられる環境と、新たな挑戦が生まれる土台をつくります。
まちづくり	安心して暮らせるためのインフラや医療・福祉などを維持・充実させ、人と人がつながり、支え合えるまちを育みます。



「ひとづくり・しごとづくり・まちづくり」が互いに支え合い、それぞれの成果が次の成長につながる循環を生み出すこと。それが、「第 3 次津和野町総合振興計画」が目指す持続可能なまちづくりの基本的な考え方です。

基本理念

人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくり

.....

「第1次津和野町総合振興計画」「第2次津和野町総合振興計画」では、2005(平成17)年策定の新町建設計画の基本目標である「人と自然に育まれ、温もりのある交流のまちづくり」を基本理念として設定し、「私たち一人ひとりが生き甲斐を持てるような社会参加を促し、豊かさを実感できる地域社会の実現が何よりも大切」という考え方をもとに、さまざまな取組を進めてきました。

この基本理念に示す津和野町の地域特性と今後目指すべき方向は長期にわたって普遍的なものであり、「第3次津和野町総合振興計画」においても、変えることなく継承していきます。

将来像

(調整中)

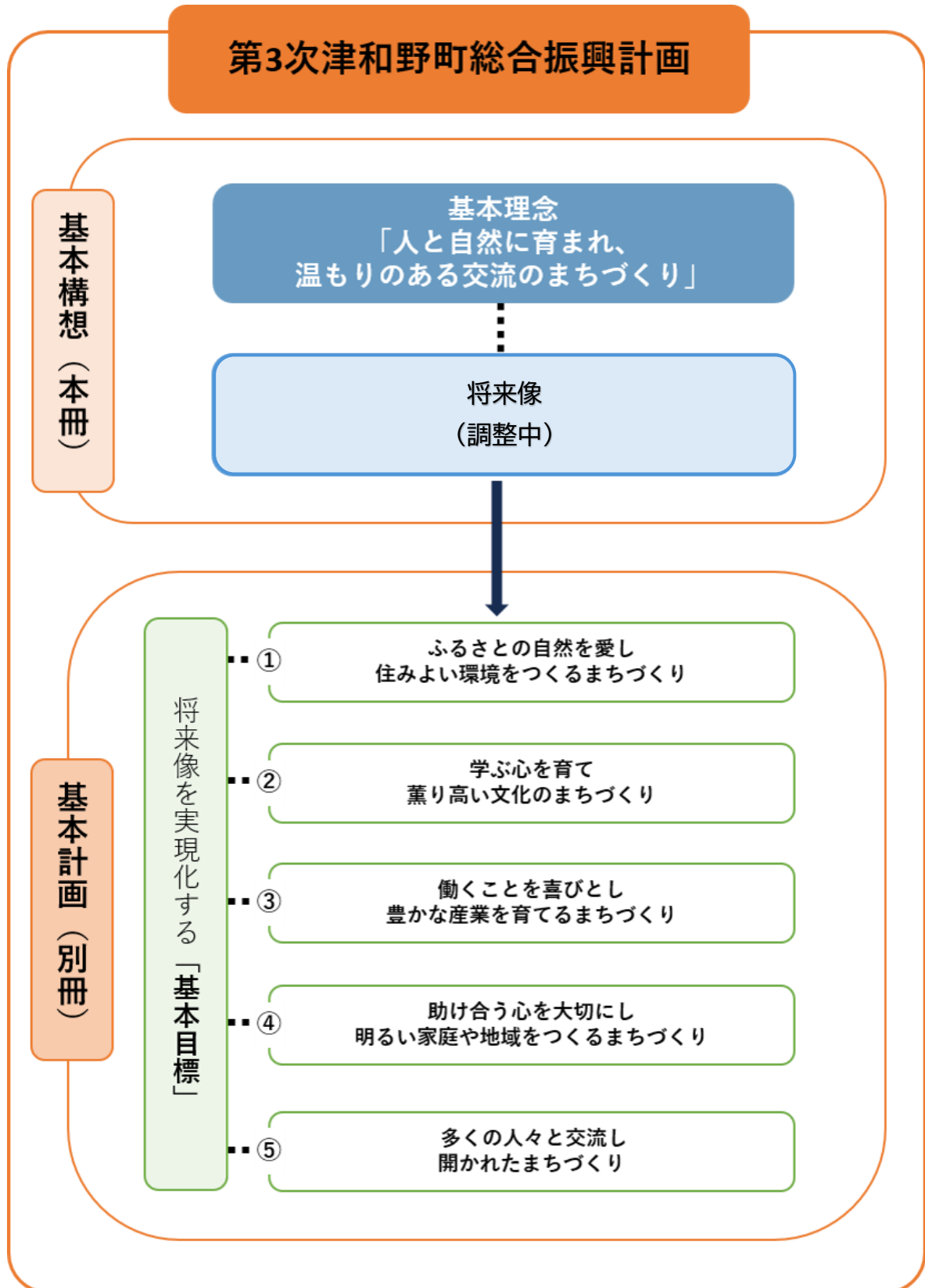
.....

津和野町では、人口減少や少子高齢化など、社会や地域を取り巻く環境が大きく変化していくことが見込まれます。こうした変化に向き合いながら、これまで培ってきた人と人とのつながりや、地域に受け継がれてきた歴史・文化など、津和野町が持つさまざまな力を生かし、新たな価値や可能性につなげていくことが重要です。

そのためには、地域の未来を担う「ひと」の力が欠かせません。「ひとづくりこそ、まちづくり」という考えのもと、年齢や立場を問わず、誰もが学び合い、支え合いながら、それぞれの力を地域で発揮できる環境をつくります。そして、人の力や地域のつながりが新たな価値や可能性を生み、地域に還元される好循環を築きます。

こうした取組を通じて、変化する時代の中でも、人と人がつながり、支え合いながら、一人ひとりが自分らしく安心して豊かに暮らし続けられるまちを目指します。

まちづくり計画の構成



「将来像」の実現に向けた 5 つの「基本目標」

「将来像」を確実に実現していくために、その軸として5つの「基本目標」を掲げます。将来像を目標へと落とし込み、具体的な施策に結びつけることで、実効性のあるまちづくりを進めていきます。

津和野町が掲げる5つの基本目標は、それぞれがしなやかに連携し合っています。

「ひとづくり」の成果を「しごとづくり」へつなげ、さらに生活基盤を支える「まちづくり」へとつなげていく横断的な連携のもとで取組を進めます。

このまちで育った人々が、多様な選択肢の中から自らの生き方を選び、まちの資源をもとに挑戦をし、外からの新しい風と響き合いながら根を張る。そんな「ひとづくり・しごとづくり・まちづくり」が連動する新しい循環の仕組みを、まちの「核」として動かしていきます。



基本目標1

ふるさとの自然を愛し 住みよい環境をつくるまちづくり

津和野町の豊かな自然や歴史的な町並みをふるさとの大切な財産として守りながら、環境保全と調和した計画的な土地利用を進めます。

また、道路や上下水道などの生活基盤の整備や、環境の保全、交通手段の確保、消防・防災や交通安全・防犯体制の充実に取り組むとともに、財政の健全化や行政サービスの充実を図ることで、ふるさとを愛し、住みよい環境をつくるまちづくりを推進します。

○これからの方向性

快適な暮らしと持続可能な生活基盤を未来へつなぐまち

計画的な土地利用と上下水道、道路、住宅などの生活基盤の整備を進めるとともに、地域の実情や多様化するニーズに応じた生活環境の充実を図り、誰もが快適に暮らし続けられるまちづくりを推進します。

また、豊かな自然環境や、歴史・文化が息づく地域固有の景観を守り生かしながら、防災・減災対策や脱炭素社会の実現などに取り組み、環境に配慮しつつ、安全・安心に暮らせるまちを目指します。

行政サービスを担う人材やインフラ、財源を効果的・効率的に活用し、人口減少や少子高齢化が進む中でも、健全な行財政運営に取り組む、多様化・複雑化する行政課題や住民ニーズに対応できるまちづくりを進めます。

○重点的に取り組むこと

- ・歴史的景観の保全・活用と、誰もが安心して住み続けられる住まいの確保
- ・上下水道や道路などの生活基盤の計画的な維持・管理
- ・防災意識の向上や地域防災力の強化、消防体制・避難環境の充実
- ・誰もが快適に移動できる持続可能な公共交通の確保
- ・デジタル技術を活用した、便利で質の高い行政サービスの実現
- ・中長期的な視点に立った、健全で透明性の高い行財政運営と自主財源の確保

基本目標2

学ぶ心を育て 薫り高い文化のまちづくり

時代の変化に対応し、自ら学び続ける人材の育成を進めることで、こどもから大人まで共に学び育つ心を育成し、まち全体を学びのフィールドとして、生涯学習の充実を図ります。

また、地域文化や芸術、スポーツに親しむ機会を増やし、郷土愛と創造性を育むことで、学ぶ心と豊かな感性を育て、薫り高い文化のまちづくりに取り組みます。

○これからの方向性

学びが息づく風土のもと、思考力と未来を育むまちへ

津和野町には、これまで教育の振興に力を注ぎ、「ひとづくり」を大切にしてきた歴史があります。これからのまちづくりにおいても、その中心にあるのは「人」です。こどもも大人も、津和野町で学び、ともに育ちながら、自ら学びつづける姿勢を身につける生涯学習のあり方を、変わることなく追求していきます。

まち全体を学びのフィールドと捉え、学校だけでなく、地域住民や多様な立場の人々との関わりを通じて、世代や分野を越えた学びと交流を育みます。さらに、町内に残る文化財や歴史的資源を学びに生かし、郷土への理解と誇りを深めます。

そして、津和野町が誇る学びの循環の中で、時代の変化にしなやかに向き合い、新たな価値を生み出すことのできる、創造性豊かな人材の育成に力を注ぎます。

○重点的に取り組むこと

- ・学校と地域が共に学び、地域全体でこどもの成長を支える環境づくり
- ・主体的に学び、ふるさとを愛する人材を育む教育の推進
- ・こどもも大人も地域で学び合い、まちづくりを担う人材やデジタル人材の育成
- ・誰もが生涯にわたって学び、文化やスポーツに親しめる機会の充実

基本目標3

働くことを喜びとし 豊かな産業を育てるまちづくり

まちの自然・歴史・文化が生んだ、農林業の持続的発展や観光振興、企業誘致・創業支援、事業承継や後継者育成などの「しごとづくり」に取り組み、地場産業の活性化を図ります。

また、行政・産業・住民が連携し、「津和野ブランド」の確立と地域の魅力向上を目指します。これらの取組から、働くことを喜びとし、豊かな産業を育てるまちづくりを推進します。

○これからの方向性

人と仕事が出会い、人材が根づくまちへ

津和野町の教育によって育まれた人々が、将来もこのまちで暮らしていくためには、町内に多様な仕事の選択肢があることが重要です。地域に人材を定着させ、未来へ産業を維持・発展させていくためには、若者やUIJターン希望者を含む多様な人材が、それぞれの希望や適性に応じて働くことのできる環境を整えることが求められます。

そのためには、新たな雇用の場を生み出すとともに、これまで地域を支えてきた産業を次世代へつないでいくことが必要です。町内の既存産業では後継者不足が深刻化しており、新たな担い手の確保・育成と事業承継が重要な課題となっています。

この課題を解消するため、まちにある「ひと・もの・こと」などの地域資源を生かし、高校・大学卒業後の地元就職や回帰を支える雇用の受け皿として、企業誘致や創業支援を推進します。あわせて、町内の既存産業の発信や魅力向上に取り組み、事業承継や後継者の確保・育成を通して、地場産業の維持・振興を図ります。

○重点的に取り組むこと

- ・農林業の持続的な発展に向けた、多様な担い手の確保
- ・地域の事業者が経営力と生産性を高め、持続的に成長できる環境づくり
- ・津和野町ならではの地域資源を組み合わせた新たな仕事の創出
- ・津和野町への企業進出の促進
- ・地域資源を活用した魅力づくりによる交流人口や観光客数の拡大

基本目標4

助け合う心を大切にし 明るい家庭や地域をつくるまちづくり

地域で支え合う仕組みを整え、誰もが住み慣れた地域で健康で安心して暮らせるまちづくりを進めます。

また、妊娠・出産・子育て支援の充実、高齢者を支える地域包括ケア体制の推進、福祉・医療体制の強化に取り組むことで、助け合う心を大切にし、明るい家庭や地域をつくるまちづくりを推進します。

○これからの方向性

生涯にわたり安心して暮らせる、福祉と医療のまちへ

町民一人ひとりが、愛着ある地域で生涯にわたり健康でいきいきと暮らせるまちを実現するためには、健康づくりの推進と福祉・医療の充実が欠かせません。

健康づくりでは、医療機関と連携しながら、健診・検診の充実や運動習慣の普及などを行い、町民の健康保持・増進を図ります。

福祉分野では、地域主体の支え合いを基盤とした地域福祉活動を推進し、障がいの有無や年齢にかかわらず、誰もが地域に居場所を持ち、安心して暮らし続けられるまちを目指します。あわせて、妊娠・出産・子育てを安心して行える支援体制の整備や、こどもが安全に過ごせる環境づくりを進めます。

医療分野では、誰もが必要な医療サービスを受けられる体制を目指すとともに、質の高い地域医療体制を充実させるため、医療・介護従事者の確保に取り組みます。

○重点的に取り組むこと

- ・誰もが地域の中で安心して暮らし、支え合える地域づくり
- ・地域医療体制の充実に向けた医療従事者の確保
- ・「0歳児からのひとづくり」を推進し、こどもの学びと成長を一貫して支える体制の整備

基本目標5

多くの人々と交流し 開かれたまちづくり

町内外の交流を深め、人や地域とのつながりを広げることで、地域振興や人材育成、魅力発信を推進します。また、町外からまちと継続的に関わる「関係人口」の創出に取り組み、人口減少・少子高齢化に対応した持続可能な地域づくりを進めます。

さらに、移住・定住希望者への支援体制を整え、津和野町の魅力を生かすことで、人が巡り、交わる、開かれたまちづくりを目指します。

○これからの方向性

地域のつながりや関係人口を力に交流を広げ、選ばれるまちへ

これまでも、教育魅力化や観光などを通じて、まちの魅力に触れた人々が津和野町と継続的に関わる「関係人口」となってきました。人口減少や少子高齢化が進む中、持続可能な地域社会を形成するためには、地域内の交流を活性化するとともに、関係人口の存在が大きな役割を担います。津和野町に興味がある人々が、地域の活動へより積極的に参画できるよう、関係性を深める仕組みづくりを推進します。

まちの魅力に惹かれ、津和野町での暮らしを希望する人々が安心して生活の基盤を築けるよう、受入体制の充実に取り組みます。

また、自治会や地域活動などを通じて育まれてきた人と人とのつながりや支え合いの文化は、まちの暮らしを支える大切な基盤です。こうした、一人ひとりの暮らしを支える地域のつながりを未来へ維持・継承しつつ、誰もが地域と関わり続けられる環境づくりを進めます。

○重点的に取り組むこと

- ・地域内外の多様な人材が還流する機会の創出
- ・雇用の創出による移住・定住の促進





第3次津和野町総合振興計画 基本構想
2027(令和 9)年 3 月

島根県 津和野町
〒699-5292 島根県鹿足郡津和野町枕瀬218番地18
<https://www.town.tsuwano.lg.jp>